



「志」大野中だより

令和6年7月1日(月)

文責:校長 瀬口 勇治

筑紫区中学校総合体育大会(中体連夏季大会) 頑張りました!

6月8日(土)に小郡市陸上競技場において、筑紫区中学校陸上競技大会が開催され、筑紫区中体連の夏季大会がスタートしました。15日(土)からその他の部活動種目も試合が行われ、大野中学校の生徒も全力でプレーしました。雨の影響もありましたが、昨日まで(一部大会が残っている部活動もあります)が筑紫区大会となっており、最後まで粘り強くプレーしてくれました。

その中で、男子バスケットボール部、陸上部、水泳部、卓球部が筑前大会への出場を決めています。保護者の皆様には、暑期中、たくさん応援に来ていただき本当に有り難うございました。筑前地区大会等や部活動の今後の取組に応援をよろしくお願いします。

地区別生徒集会を行いました。

6月19日(水)5校時に区長さん方をお招きして、「第1回:地区別生徒集会」を行いました。白木原区は「体育館」を会場に行いました。体育館で全体会を行った後、4地区に分かれて、区長さんから「令和6年度に予定されている地区行事の説明や大野中学生に期待すること」などをお話していただきました。

皆さんが真剣に話を聞く姿に、これからの地域を支えてくれる若い人たちに大きな期待ができると感じていただきました。

これから行われる「夏祭り」や「餅つき」などの地域行事は、誰かにやってもらうだけではなく、自分たちの地域は、自分たちも一緒になって盛り上げていくんだという意識をもって、積極的に関わってほしいと思います。



月の裏側は地球からは見られないの?

先日、『中国政府は、無人の月面探査機「嫦娥(じょうが)6号」が月の裏側で採取した岩石などのサンプルを収めたとするカプセルが、25日午後、地球に帰還したと発表しました。月の裏側のサンプルが確認されれば世界で初めてとなります。』というニュースが流れました。「月の裏側」って?

夜空に浮かぶ月の模様は、日本では「ウサギの餅つき」の姿といわれていますが、インドでは「ワニ」、中東では「ライオン」、ヨーロッパでは「カニ」、アメリカでは「女性の横顔」など、国や地域によってたとえられ方は違い、地球から見る月の模様は、じつに多彩な見え方をしますが、実は、いつも同じ面しか見ることができていません。すなわち、地球からは、月の裏側は見えていないのです。

それは何故でしょう。「月が自転していないから」ではありません。それどころか、もし月が自転していないとすると、逆に地球からは月の「表側」だけでなく、その「裏側」もきちんと見られるはずです。

地球から月の裏側が見られないのは、月が自転と同時に公転しているからです。地球の衛星である月は、地球のまわりを1公転するあいだに1自転しています。そして、自転も公転と同じ27.32日周期であることから、月は1回転するあいだに、地球に対して常に同じ面を向けて自転していることになるというわけです。

月はその誕生以来、地球に対して同じ面を向けていたことが、月の裏側に無数に刻まれたクレーターからも証明されています。なぜ、クレーターの多さがその証拠になるのかというと、クレーターの数は、そこに衝突した隕石(いんせき)の数と比例しているからです。つまり、地球から見える表側には、地球に守られているために隕石があまり衝突していないのに対し、守られていない裏側には、ボコボコとした無数のクレーターが残されているのです。なので、普段見えない月の裏側に行き、岩石を採取するという事は凄いいことなのです。

今後の主な行事予定

日程	学校行事	日程	学校行事
7月3日(水)	市教委 学校訪問	7月5日(金)	授業参観・懇談・説明会
7月4日(木)	学校運営協議会	7月8日(月)	主題研究による職員研修
	「志タイム」内田教授講話	7月19日(金)	終業式(3時間授業、昼食(ランチ有)、終業式)



